

令和 2 年度 自己評価結果公表

学校法人 寺田学園
認定こども園 大根占幼稚園

1. 教育方針

本園の地域性、園児の実態、家族の状況を踏まえ、幼保連携型認定こども園の教育及び保育の基本の示すところに従い、創造力豊かなたくましい子どもの育成に努める。

【保育目標】

「まことの保育」

情操教育の中で、思いやりの心を養うとともに、豊かな自然環境の中で創造力豊かなたくましい子どもに育てる。

【めざす姿】

「めざす園児像」

子どもにとっていきいきとした活動ができ、毎日通いたいと思える園

「めざす子ども像」

強く明るく豊かな心をそなえる子（仏さまを拝む子）

感謝と協調のできる子（ありがとうの言える子）

聞く態度を身に付け、探究と創造と自律に燃える子（良く聞く子）

互いに助け合うことに喜びを感じ仲間作りに励む健康で元気な子（仲良くする子）

【ねらい及び内容】

①発達に応じて、ねらい及び内容の 5 領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）に基づいて行う。

②情操豊かな人間像（ゆたかな心・かしこい頭・じょうぶな体）を目標に調和のとれた環境を整え、日々伸び伸びとした教育及び保育に努める。

③自然豊かな環境の中で様々な行事や体験を取り入れるとともに、年長児の和太鼓を中心とした音楽活動のほか季節に応じた制作や、かずことば遊び、体操や鉄棒などの体力づくりを通して、子どもたちの限らない可能性を最大限に生かす教育及び保育に努める。

【本年度の努力点】

- ①基本的な生活習慣・態度・人との関わる力の育成
 - ・明るく元気なあいさつの習慣
 - ・整理整頓、後始末の習慣化
 - ・衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動の自立化
- ②健康安全に必要な習慣や態度の育成と体力作り
 - ・体力づくりの実践
 - ・交通事故防止や防犯対策についての計画的な実践
- ③心の教育並びに学びの芽生えを促す教育の充実
 - ・絵本や紙芝居等の活用による思いやりの心など豊かな心情の育成
 - ・自然の美しさ、人の優しさにふれる体験活動の充実
 - ・栽培活動を取り入れ豊かな感性の育成
 - ・身近な人、ものへの興味や関心を通しての学びの芽生えの育成
- ④豊かな感性・表現力の育成
 - ・動きや言葉による表現活動の充実
 - ・運動会、発表会、誕生会等多くの発表の場を設定
 - ・歌をうたったり、楽器を使い、音楽に親しむ活動の充実
- ⑤諸行事等の効果的運営
 - ・各行事のねらい、内容の共通確認
 - ・行事の実施記録の整備（成果と課題）の充実
 - ・行事の具体的な計画の作成と事前・事後の指導の徹底
- ⑥学級管理・経営の充実
 - ・園児の受け入れ、朝・帰りのお集まりの充実
 - ・学級事務の適性、迅速な処理
 - ・保護者との密接な連携の上に立つ学級経営
- ⑦教職員研修の充実
 - ・園内研修（全体研修・学年研修）の充実
 - ・外部研修会への積極的参加と研修報告の充実
 - ・県私立幼稚園教職員研修大会に向けての研修
- ⑧保護者・学校・地域社会との連携
 - ・諸行事の推進、充実のための保護者との連携
 - ・子育て支援事業の充実
 - ・幼小連携による具体的実践の推進

2. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	評価	取組み状況
教育方針・目標	A	<ul style="list-style-type: none"> ・56年の歴史を大切に引き継ぎながら、地域性、園児の実態、家族の状況を踏まえ、幼保連携型認定こども園の教育及び保育の基本の示すところに従い、創造力豊かなたくましい子どもの育成に努めた。 ・保護者に対しては、園便りやホームページ、保護者総会等で方針・目標を伝え理解を促す（今回はコロナウィルス感染症対策予防により書面にて理解して頂いた。）
基本的な生活習慣・態度・人との関わる力の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは、はっきりと元気良く、を基本に全クラス取り組めた。 ・カバン棚の整理や遊んだものの片付けの習慣づけてできていた。 特に学期の終わりの大掃除ではみんなできれいにしていた。 ・月齢、年齢、個性に合った生活を促し、できることが増えていった。
健康安全に必要な習慣や態度の育成と体カづくり及び衛生管理	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭やグラウンドの遊具を使い体を鍛える。 ・外部の講師を招き、楽しみながら基礎運動に取り組む。 ・園外保育や散歩等を通じて横断歩道のわたり方、標識等のルールを学ぶ。 ・感染症予防対策として、マスク・手指消毒・手洗い・うがいの徹底に加え、感染症の流行があれば保護者に周知するよう手紙を配布している。 ・看護師による職員、子どもたちへの手洗い指導を行い手洗いの大切さを学ぶことができた。 ・毎朝、家庭での検温の徹底 ・食物アレルギーについては、年度当初に保護者との連携を密にし、担当医指示書のもと個々の子どもの実態に応じて、給食・おやつ等細心の注意をして対応している。

教育環境の構成	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の遊具の下には弾力マットを敷き、安全に気を付ける。 ・絵本や紙芝居、演劇等を利用しいろいろなことを感じ話すことができた。 ・お互いに助け、助けられ、また一緒に考え思いやりを持つことができた。 ・栽培活動では、苗植えから収穫までの流れを経験することができた。
豊かな感性・表現力の育成	B	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じた制作や活動など充実していた。 ・運動会、お遊戯会など観客の中での発表ではとても頑張ることができた。 ・新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として今年度は地域の発表の場は中止になり参加することができなかった。
諸行事の効果的運営	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園内、園外保育の各クラスの計画及び留意事項を作成し全員で共通理解をする。 ・行事の実施記録をしっかりと記録し次に活かせるようにする。
学級管理・経営の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット(キッズビュー)を取り入れタブレットにて管理する。 ・保育教諭の仕事削減の為キッズビューにて記録の作成をする。
教職員研修の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアアップ研修を中心に、保育の質を高めている。 ・専科講師による和太鼓の実技、指導研修を行い互いの指導技術の向上を図っている。
教職員同士の協力・連携	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間のハウレンソウ(報告・連絡・相談)を徹底しているが。 ・朝礼時にその日の連絡を共有し、参加できなかった職員にも連絡する。 ・様々な行事を通して、係を中心に準備・進行・後片付けなどで、教職員が協力し助け合って同僚性高め合っていくようにしている。

<p>保護者・学校・ 地域社会との 連携</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 保護者参加型の交流は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、あまり開催できなかったが年長児の保護者のみの開催は行うことができた。 • 体験入学や幼小連絡会を通じて学校との連携をとる。 • 自治体が開催する催し物に依頼があれば参加するが、今年は新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として中止になったため参加できなかった。
<p>情報の発信と 受信</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 連絡帳を活用したり、個々の子どもの様子は保護者と直接話したりして情報交換を行っている。 • 年度末にアンケートを実施し、保護者等の声を聞き入れ、改善できるように取り組んでいる。 • オクレンジャー（アプリ）を活用し、いろいろな大切な情報を知らせしている。 • ホームページを開設し、ブログ等で各クラスの様子を発信している。
<p>安全管理体制 の整備</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 毎朝、遊具や建物等の点検を行っている。 • 毎月避難訓練を行い、非常災害時における職員の安全体制を確認するとともに、幼児の安全管理に対する意識を醸成している。 • 監視カメラの作動によって、外来者を把握し、開閉を行っている。

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

認定こども園 大根占幼稚園としては、様々な評価項目で取組に対して、大きな成果があったと考えている。行事では新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として規模を縮小したり、中止になるものもあったが、大きな行事に関しては、形は変われど開催することができ、また保護者の方も多くの協力と理解をしていただき、子どもたちも楽しく本来の力が十分発揮できるように実施することができた。

今年度は、今まで以上に感染対策を徹底してきたが来年度もまた同様に続けていかなければならない。

今後も、保護者の就労保障を実現するために、保護者が安心して子どもを預けることができるように、幼保連携型認定こども園 大根占幼稚園として0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育を一体的に連続して行うことを目標とし、今まで以上にカリキュラム・マネジメントに努めなければならない。

また、子どもの立場に立ち、将来に向けてより望ましい人間関係・人格形成が行われるように、今まで以上に一人ひとりの人権を尊重し、最善の利益が守られるよう配慮しなければならない。そのために、乳幼児期の特性及び保護者や地域の実態を踏まえ、環境を通して教育及び保育を行うことを基本としたい。

法人名	学校法人 寺田学園
評価した者の名前	理事長 寺田秀樹
評価年月日	令和3年3月31日